小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人 来友会	代表者	西座　新二
事業所名	小規模多機能ホーム くすのき	管理者	木本　和紀

法人・事業所の特徴	くすのきでは、利用者に合わせて柔軟にサービスを組み合わせ、支援を行えるよう心がけています。又住み慣れた場所で生活を送っていただくためにはどうすれば良いかを常に考えています。そして当施設を気軽に利用でき、また利用したいと思ってもらえるよう、利用者が利用したい時にお迎えに行き、帰りたい時に送るようにしています。また季節を感じられるよう外出する機会を増やし利用者同士の交流にも勤めています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民･地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	１人	人	３人	人	人	人	１人	３人	人	８人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	外部評価がわかりやすくなるよう環境を整える。 もっと事業所の事を知ってもらえるように、他の事業所職員の参加を促す。	日頃よりだれが見てもわかる記録をつけるよう指導している。 新型コロナウィルスの影響で他の事業所の参加をお願いすることは難しかった。	資料はしっかりと討論したのがよくわかる。いい資料である。 いつも運営推進会議だけではわかりにくい点もあるので、ので自己評価を得てわかりやすく疑問点も聞けてよい。 コロナ感染症のため行動制限があり、前回同様となることは仕方ないところはある。	同一敷地内に事業所があるため運営推進会議に多くの職員が順番で参加するように調整を行いいろいろな意見を聞ける機会を増やす。
B. 事業所のしつらえ・環境	前回につづき運営推進会議の時に、事業所を見学する時間を作る。 会議の場所をサロンのみでなく他事業所も設定する。	新型コロナウィルスの影響で面会制限もしていることから行うことが難しかった。	コロナ感染症のため行動制限があり、前回同様となることは仕方ないところはある。	事業所を見学する機会を作り、会議を行っている場所をサロン以外に設定し雰囲気を見る機会を作る。
C. 事業所と地域のかかわり	会議の場所をサロンのみでなく他事業所も設定する。	他の事業所を設定することは難しかった。	コロナ感染症のため行動制限があり、前回同様となることは仕方ないところはある。	認知症サポーターの受け入れや地域の行事に参加する機会を作る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	小学校との交流会（慰問）を再開できるように働きかける。	新型コロナウィルスの影響で第３小学校との慰問再開に向けてコンタクトを取ってるができない。	コロナ感染症の状況をふまえ可能な範囲で努力していただきたい。	外出できない期間が長かった利用 者の方が大半なので、機会を見つけられれば、地域に出向いていく。

Ｅ．運営推進会議を活かした取組み	本人を支えている家族、地域馴染みの人や物を把握することから始める。	地域の行事には参加できるものは参加するようにしている。 最近はイベントも少なく参加ができない現状がある。	地域でも催しの自粛がされている中で仕方がないと思われる。 取り組みに対する姿勢が評価できる。	運営推進会議の中で、地域の困りごとなどがあれば検討する。 運営推進会議の中で、地域の催しなどの情報を教えていただく。 委員との交流を深め、気軽に相談をしやすい施設 を目指す。
Ｆ．事業所の防災・災害対策	事業所の現状を、運営推進会議を通して定期的に知っていただき、利用対象の方をお伝えしていく。 引き続き地域の防災会に参加する。	防災会には参加している。 災害時の地域の方を受け入れる体制は整っていて緊急避難所になっている。 災害時、自家発電機で対応できるようにしている。	春日町会長より、防災訓練活動に参加していてだいて感謝している。 近くに職員が多いのは安心できる。	地域との連携を大切にする。 防災設備の管理と、安心していただける情報を関係者に啓発して、災害時に頼りにされる事業所を目指す。